

憲法から考える 実名犯罪報道

飯島滋明◎編著 = 名古屋学院大学准教授

実名報道、犯人視報道は、
《表現の自由》《知る権利》を
根拠に許されるのか？
憲法学の視点(人権尊重)から
徹底的に見直しがはじまる。

第1部 いまも続く実名犯罪報道の現状

- 第1章 足利事件……………山際永三
- 第2章 名古屋偽造文書事件……………矢内真理子
- 第3章 看護師爪ケア冤罪事件……………飯島滋明
- 第4章 福井女子中学生殺人事件……………中嶋啓明
- 第5章 痴漢冤罪逮捕事件……………飯島滋明
- 第6章 京都劇団員「窃盗」冤罪事件……………矢内真理子
- 第7章 富山(氷見)事件……………山際永三
- 第8章 北陵クリニック事件……………山口正紀
- 第9章 事故・犯罪被害者の実名報道被害……………山口正紀

第2部 実名犯罪報道を考える視角

- 第1章 犯罪報道と報道基準の変遷……………山口正紀
- 第2章 「安全・安心社会」とマスメディア……………清水雅彦
- 第3章 権力に弱い実名報道主義……………浅野健一
- 第4章 実名犯罪報道に対する名誉回復は可能か——私の「実名犯罪報道」を手がかりに……………飯島滋明

第3部 憲法から考える実名犯罪報道

- 第1章 実名犯罪報道を憲法から考える視点……………飯島滋明
- 第2章 個人の尊厳から見た実名犯罪報道……………井上知樹
- 第3章 実名犯罪報道をめぐる無罪推定法理の意義と射程……………瀧野貴生
- 第4章 実名犯罪報道と社会復帰の権利……………奥田喜道
- 第5章 表現の自由の原理と実名犯罪報道——憲法とマスメディアをめぐる原点と現点……………長峯信彦
- 第6章 実名犯罪報道と知る権利……………榎澤幸広
- 第7章 スイスにおける事件報道の現状と憲法論……………奥田喜道
- 第8章 実名犯罪報道と忘れられる(忘れてもらう)権利……………奥田喜道



定価 1995 円 (税込)
ISBN978-4-87798-552-3 C0036
A5判・216頁・並製
2013年5月刊



現代人文社 <http://www.genjin.jp>

発売元:(株)大学図書

〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-10ハッ橋ビル7F Tel.03-5379-0307 Fax.03-5379-5388
お近くの書店または小社へ直接ご注文ください。(小社からの発送は代金引換手数料 200 円を申し受けます)